

News & Information

ソニー教育財団 2019年度「教育・保育実践論文」 入選校・入選園発表 教育助成金とソニー製品を贈呈

ソニー教育財団（会長：盛田 昌夫）は、全国の小学校・中学校、幼稚園・保育所・認定こども園から教育・保育実践論文を募集し、特に優れた取り組みに、教育助成金とソニー製品を贈呈しています。今年度、全国の小・中学校より171件、幼稚園・保育所・認定こども園より153件、合計324件の論文応募があり、書類審査、現地調査および厳正なる最終審査を経て、下記の通り入選校・入選園が決定いたしました。

受賞された学校・園の先生および保護者代表の皆さまには、2020年1月18日（土）にソニー株式会社本社にて開催する贈呈式にて、ソニー教育財団会長 盛田 昌夫より、賞状と目録をお渡しいたします。贈呈式では、文部科学省をはじめとするご来賓の皆さまをお迎えし、入選校・園による研究発表も行います。

1959年にソニー創業者の井深大が「日本の発展には子どもたちの科学教育こそ重要」だと考え、ソニーが小学校への教育助成活動を始めてから60年を迎えました。ソニーは長きにわたり、よりよい教育の実践に熱意をもって取り組む全国の先生方を支援し続けています。ソニー教育財団はその信念に基づき、これからも教育・保育現場の先生方と共に、子どもたちの「科学する心」を育ててまいります。

2019年度 ソニー子ども科学教育プログラム入選校・ソニー幼児教育支援プログラム入選園

対象：小学校・中学校 テーマ：「科学が好きな子どもを育てる」教育実践と計画
審査委員長：御手洗 康 元文部科学事務次官

■最優秀校（2校）：教育助成金300万円とソニー製品（※）

学校名	論文テーマ
北九州市立藤松小学校 （福岡県）	科学する心を育む 藤松の教育2019
豊川市立南部中学校 （愛知県）	どうしても解き明かしたい！



北九州市立藤松小学校の実践

- ・優秀校（10校）：教育助成金50万円とソニー製品（※）
- ・奨励校（73校）：教育助成金10万円とソニー製「デジタルスチルカメラ（1台）」

対象：幼稚園・保育所・認定こども園 テーマ：「科学する心を育てる」幼児教育実践と方向性
審査委員長：小泉 英明 （株）日立製作所 名誉フェロー

■最優秀園（2園）：教育助成金200万円とソニー製品（※）

園名	論文テーマ
国立大学法人福島大学 附属幼稚園（福島県）	自分で考え、試そうとする子どもを育てる
京都市立中京もえぎ 幼稚園（京都府）	“ねがい” ～科学する心は“ねがい”からはじまる～



中京もえぎ幼稚園の実践

- ・審査委員特別賞（1園）優秀園（8園）：教育助成金30万円とソニー製品（※）
- ・優良園（13園）：教育助成金10万円とソニー製「CDラジカセ（1台）」
- ・奨励園（50園）：教育助成金5万円とソニー製「CDラジカセ（1台）」

※ソニー製品：「4K液晶テレビ」、「データプロジェクター」、「4Kビデオカメラ」、「デジタルスチルカメラ」「アクションカム（2台）」「KOOV（2台）」「MESH（7タグを3セット）」から1つをお選びいただけます。また、受賞にかかわらず、ご応募いただいた全ての学校・園に「デジタルスチルカメラ（1台）」等を贈呈します。

入選した学校名・園名は、ソニー教育財団のウェブサイトをご覧ください。
ソニー教育財団「教育助成」：<http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/>

最優秀校・最優秀園 審査講評

最優秀の入選論文（PDF）はウェブサイトでお読みいただけます。

ソニー教育財団「教育助成」：<http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/>

最優秀校

■北九州市立藤松小学校（福岡県）

科学する心を育む 藤松の教育2019 ～「見る」から始まる「考える」理科・生活科学学習の創造～

「科学が好きな子ども」を育てるために長年にわたって学校全体が一丸となって取り組まれ、11年連続して応募されました。科学する心を支える「授業づくり」において、目指す子ども像の実現に向けて着実に実践を積み重ね、手立てを広げ深めていることが高く評価されました。授業の様子からも、事象に出会う場の構成や説明場面の設定など、単元の工夫を基礎としながら、子どもたちの生き生きとした追究につながる具体的な創意工夫が見られます。また、教材の特質を踏まえた事象の扱いなど、子どもの問題意識を高める工夫が行われています。「環境づくり」についても、保護者・地域との連携を図りながら、子どもたちへの様々な働きかけが行われていることは、大変すばらしい財産となっています。

■豊川市立南部中学校（愛知県）

「どうしても解き明かしたい！」導入と問い直しの工夫により、子どもが主体的に活動し、自然の神秘と科学の有用性を実感する科学教育を旨としてⅡ

生徒が「自然の神秘」と「科学の有用性」を実感する理科教育の実現を目指すために、「問題解決的な学習」を重視して地道に研究実践を継続されてきました。そのために、「問題を発見する力」「問題解決のために仮説を立論する力」「仮説の正しさを証明するための検証を行う力」「検証の結果から科学的に考察する力」を高める4つの学習過程を大切に、授業実践において大きな成果を上げています。具体的な学習展開においては、個・グループでの主体的な探求活動を促し、充実した学習が行われ、その過程で「4つの力」を高める教師の手立てが具体的に計画・実施されています。中学校の理科学習の配当時間上、このような活動に取り組むことは難しいこともある中で、各学年・各学期において実施することに努力されていることが高く評価されました。

最優秀園

■国立大学法人福島大学附属幼稚園（福島県）

自分で考え、試そうとする子どもを育てる 一生き生きとした体験や安心して伝え合える環境を通してー

「自分で考え、試そうとする子どもを育てる」をテーマとし、動植物に関わる子どもの姿に視点を当てて取り組みました。5歳児が、動植物との関わりで生まれた“「分からない」壁”を乗り越えるために思考をフルに働かせ、試行錯誤する行動力をもつには、3歳児、4歳児なりに芽生える「科学する心」が影響すると考え、各年齢の成長過程や発達の特徴を明らかにしています。一人の子どもに焦点を当てて継続的に記録することで、子どもの体験の深まりだけではなく、思いを実現するための体験の広がりや質の違う多様な体験により、「科学する心」が育まれることも明らかにされました。子どもの疑問を、保護者や地域の専門家とも共有し、“子どもと一緒に考え合う”という連携の工夫は、他園の参考になる取り組みです。

■京都市立中京もえぎ幼稚園（京都府）

“ねがい”～科学する心は“ねがい”からはじまる～

2009年度から継続して「科学する心を育てる」ことに取り組み、子どもたちの成長を着実に捉えて積み重ねてきた成果を基に、本年度は新たな視点として子どもの“ねがい”に注目し、園が一つになって熱心に研究を深化されました。5歳児の子どもたちが「予想や予測」をもって遊び始めることを明らかにし、それは“ねがい”をもつから生まれるとの仮説をもたれました。そして、子どもの心にある“ねがい”を読み取るために、子どもの“ねがい”から始まる遊びの過程を時系列で図式化し、子どもの心の動きと行動が変化する外的な要因・原因をも明確に示した、深遠な読み取りにつなげています。子ども理解を踏まえた保育者の援助と環境構成・再構成の工夫による保育の深耕は、他園の参考になる取り組みです。

■ソニー創業者 井深 大と教育助成について

ソニーの創業者である井深 大は、戦後間もない日本において、科学技術の振興こそが国の発展に繋がると考え、次世代を担う子どもたちへの理科教育に多大な関心を抱いていました。日本初のトランジスタラジオを発売し、会社経営が軌道に乗り始めたのを機に、1959年に「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。ソニーの教育助成活動の始まりです。

この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立しました。その後、井深大の理念を引き継いだ教育助成活動は対象を中学校にも広げ、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。60年以上にわたり、創造的で先進的な取り組みを行う全国の学校、先生方を支援してきました。

一方で、井深大の関心は幼児教育にも広がり、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。幼児期の豊かな感性と創造性の育成を目指し、2002年から幼稚園・保育所・認定こども園を対象にした「ソニー幼児教育支援プログラム」を開始しました。2011年に「公益財団法人 ソニー教育財団」となり、乳幼児期から中学生までの「科学する心を育てる」こと、「科学が好きな子どもを育てる」ことを柱にした教育助成を行っています。

教育助成の他、“自然に学ぶ”をテーマに探究する小・中学生対象の「科学の泉－子ども夢教室」、親子の絆を育む「科学する心”を見つけよう フォトコンテスト」など、未来を生きる子どもたちへのさまざまな支援活動を行っています。



ソニー創業者 井深大

■ソニー教育財団のあゆみ

- 1959 「ソニー小学校理科教育振興資金」開始
- 1963 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」結成
- 1969 「財団法人 幼児開発協会」設立
- 1972 「財団法人 ソニー教育振興財団」設立（井深大理事長）
- 2001 「ソニー教育資金」を改称し「ソニー子ども科学教育プログラム」開始
「ソニー教育振興財団」と「幼児開発協会」を統合し、「財団法人 ソニー教育財団」となる
- 2002 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」を改組し、「ソニー科学教育研究会（SSTA）」発足
「ソニー幼児教育支援プログラム」開始
- 2011 「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行
- 2019 教育助成開始から60周年を迎える

<報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川4-2-1
TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 (担当 山下)